
第4回 日吉津村議会定例会会議録（第3日）

令和元年12月4日（水曜日）

議事日程（第3号）

令和元年12月4日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員（10名）

1番 長谷川 康 弘	2番 山 路 有
3番 橋 井 満 義	4番 三 島 尋 子
5番 松 本 二三子	6番 河 中 博 子
7番 前 田 昇	8番 松 田 悦 郎
9番 加 藤 修	10番 井 藤 稔

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 高 森 彰 書記 森 下 瞳

説明のため出席した者の職氏名

村長	中 田 達 彦	総務課長	高 田 直 人
住民課長	清 水 香代子	福祉保健課長	小 原 義 人
建設産業課長	益 田 英 則	教育長	井 田 博 之
教育課長	松 尾 達 志	会計管理者	西 珠 生

午前9時00分開議

○議長（井藤 稔君） おはようございます。ただいまの出席議員数は10名です。定足数に達していますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（井藤 稔君） 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続いて、通告順に一般質問者をされる議員の紹介をいたします。通告順6番、議席番号6番、河中博子議員、通告7番、議席番号5番、松本二三子議員、通告8番、議席番号3番、橋井満義議員、以上の順で一般質問を行っていただきます。

通告順に質問を許します。

6番、河中博子議員。

○議員（6番 河中 博子君） おはようございます。6番、河中博子です。

一般質問、きょうは2項目お尋ねいたします。最初に、長らく凍結され、鳴りを潜めていた感のある米子道の境港への延伸について、次に、昭和61年9月1日に発行されてから33年経過した日吉津村誌の改訂版について、あわせて村の貴重なデータや資料を整理し保存する業務の現在の状況についてお尋ねします。

さて、最近の日吉津村にとって注目すべき問題は、米子—境港間高規格幹線道路の延伸についてではないでしょうか。最近のマスコミ報道によりますと、米子境港高規格道路事業化を要望。鳥取県の平井伸治知事と関係自治体の首長は国土交通省を訪れ、早期事業化を要望した。今回は中田達彦日吉津村長が初めて参加した。この件は1966年、今から53年前、中国横断道岡山米子線の一部として予定路線に指定したが、費用対効果など問題があり、2006年に凍結という経緯があるといった内容でした。一般的に高規格道路、つまり高速道路がつくことは歓迎すべきことでありまして、利便性の向上という観点からは賛成するものですが、副次的にさまざまな問題を含んでいると考えます。例えば、もし日吉津村の頭の上を空飛ぶ車よろしく高速道路に乗って素通りする車が村の経済に対してどんな影響を及ぼすのか、また、振動や排気ガスによる自然環境や生活環境への影響はどうかといった、地域に与える環境問題についても、早い時期に検討をする必要があると私は考えます。高速道路は地域にとって毒であり薬であると言った専門家がいます。うまく使えば地域が活性化する良薬、つまり、よく効く薬になるが、使い方を誤ると毒に苦しむことになる。高速道路と地域との関係において最も大切なことは、高速道路の毒

の要素と薬の要素について地域が十分に認識することであると指摘しています。そのとおりだと思います。これについて、村長はどう思われますでしょうか。

続いて、昭和61年9月1日に発行されました日吉津村誌ですが、33年たった今、そろそろ改訂版を発行する必要があるのではないのでしょうか。言いかえれば、昭和61年から平成、令和にかけての村の記録がストップしているということです。私はいつも申し上げていますが、記憶は薄れても記録は残ります。さらに、ただ保存するのではなく、それを活用することが大事なのであって、老婆心ながら、まだ昭和を語れる方がいらっしゃる今、少しでも前に進めていかなければならないのではないのでしょうか。もちろん一言で村誌と言いましても、そう簡単につくれるものではないということは十分に承知しているつもりです。人材を含め、まず体制をつくることから始めないといけません。だからこそ、まずは、改訂版といいますか、新しい日吉津村誌をつくるという方向づけをして、一步踏み出す決意をしていかないと、いつまでたってもできないと思います。この点はいかがでしょうか。

あわせて、昨年3月を含め、何回か一般質問でデータベース化事業についてお尋ねいたしました。答弁として、そのためにカメラを買った、他町の様子を見学する予定であったが地震でできなかった、県の方針に沿って進めると、発言内容が後退しているように感じています。県の方針はどのようなものなのか、それに対して日吉津村としてはどう取り組むのか、そのあたりのことを伺いたいと思います。

なお、答弁によりましては再質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） おはようございます。一般質問2日目ということです。きょうもよろしくお願いいたします。

まず、河中議員からの御質問にお答えをしまいたいと思います。

1点目ですけれども、米子道の境港への延伸についてとの御質問にお答えをいたします。

米子—境港間の高規格幹線道路についてのこれまでの経過や私の考え、これは諸般の報告で述べさせていただきましたとおり、これを整備することにより、鳥取県西部圏域及び中海圏域の物流、観光、商業、企業立地等、さまざまな面で地域の価値を高め、圏域及び日吉津村の将来の発展につながるものと考えております。このためには、まず米子インターチェンジと米子北インターチェンジ間の事業凍結解除、続いて米子市から境港市間の事業化が必要になりますので、地域が一体となって国への要望活動を行ってまいることが必要だと考えております。

御質問のありました、高規格道路の整備による影響等への早期検討開始の考えについて御説明

をいたします。これまで日吉津村は平成24年から、国土交通省、鳥取県、米子市、境港市、それと日吉津村で構成しております、米子・境港地域と道路のあり方検討会に参加をし、まちづくりストック効果、事故、渋滞について、地域の現状、課題、まちづくりの方向性、道路網のあり方等を検討してきているところでございます。今後も引き続き、当該検討会においてさまざまな面から検討を行い、高規格道路の整備実現に向けて努めてまいりたいと考えております。検討状況や進捗状況等につきましては、適宜御報告をさせていただきたいと考えているところでございます。議員、御心配いただいております経済や環境への影響等につきましては、事業が採択されるまでの間に、先ほど申し上げました検討会を初めとして、国が実施をいたします計画段階評価、環境影響評価などさまざまな場面で議論をする場面がございます。計画策定に当たっては積極的に関与して圏域及び日吉津村の将来の発展につながりますよう検討してまいりたいと考えておりますので、御理解いただきますようお願いを申し上げます。

2点目の御質問でございます。村誌を含む村内資料の整備をとのことでございます。こちらにつきましては、村の歴史を記録し後世に引き継いでいくということは、非常に重要なことであるというふうに認識をしています。一方で、議員も少しおっしゃいましたけれども、この村誌というものを編さんをしていくためには、しっかりとした体制の整備が必要になってまいります。例えば、ことし町誌を続編ということで発行されました日野町の場合ですけれども、町誌の編さん室、これを平成26年度から設置をされまして、知識豊富な職員を1人専任で配置をされ、歴史の研究者や教職員の皆さん等の協力を得ながら、6年かけて作成をされたということでございます。ということをお考えますと、非常に重要性は認識をされる所ですけれども、非常にエネルギーもかかってくる事業になるというふうに考えているところでございます。

もう一点の御質問でありました、県で進めております事業の関係に伴う村のデジタルデータベース化についての御質問でございますけれども、県では、平成30年の8月に鳥取県デジタル化計画ネットワーク会議というものを設置をいたしまして、この中で、県立図書館であるとか県内の図書館、県立博物館、県立の公文書館等が連携をいたしまして、各機関のデジタルデータを横断的に登録、検索できるプラットフォーム、仕組みを構築をして、鳥取デジタルコレクションというシステム公開を目指しているところでございます。これは令和2年度末にこういったデジタルコレクションというもののシステム公開をスタートさせたいということで、進めておられるということでございます。その仕様等につきましては、まだ、どういったものになるかというのは、はっきりお聞きをしていないというところではございますけれども、村におきましても、これと並行いたしまして、村の広報紙でありますとか113チャンネルの番組といったものをデジタル

アーカイブス化を図っているところでございます。こういったデジタル化、データベース化というような取り組みを進めながら、また県の検討しておりますプラットフォームの進捗状況も見ながら、一方で、議員からありました村誌編さんの必要性、あるいは、やるとすればどういったタイミングでやっていくのがいいのか、そういったことについて、また必要な体制等につきましても検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議員（6番 河中 博子君） 再質問よろしいですか。

○議長（井藤 稔君） 河中議員。

○議員（6番 河中 博子君） 再質問を少しさせていただきます。

まず、高規格道路についてなんですけれども、米子インターチェンジと米子北インターチェンジの間の凍結解除ということがよく新聞にも載ってますし、先ほど村長もおっしゃいましたけれども、米子北インターチェンジというのは、当初、予定はどの場所のことですか。

それと、米子・境港地域道路のあり方検討会というふうにおっしゃいましたけれども、そこでずっと検討してきているとおっしゃいましたけれども、私が今検討ということによっておりますのは、そのあり方検討会とは別に日吉津村独自の、村民が意見を言える組織というもので検討する必要があるのではないかとということでお尋ねしていますので、この点についてもお答えいただきたいと思います。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 河中議員からの重ねての御質問にお答えをいたします。

まず1点目、米子北インターチェンジ、これの予定地がどこかあったのかということでございますけれども、こちらにつきましては、どこということがあったものではありません。名称というか、米子インターから米子北インターまでの区間という、区間の想定がある中で米子北インターという名称が出てきますけれども、これがどこを想定されているかというものはないというふうにお聞きをしているところでございます。

2点目のあり方検討会、日吉津村においてこういった検討会をするべきではないかということでございます。こちらにつきましては、現在、要望を行っていく中におきましても、米子市であるとか、境港市であるとか、県と日吉津村も一緒に、このエリア一体となって要望を行っていく段階であります。この検討につきましても、個別の市なり村なりで検討するというよりは、やはり全体の区間を見る中で、どういったことが考えられるか、どうすれば一番効果が大きいかなというようなことを全体を見る中で考えていくことが必要だと思っておりますので、これを日吉津村独

自で別の検討会を開催をするということは考えていないということでございます。以上でございます。

○議長（井藤 稔君） 河中議員。

○議員（6番 河中 博子君） 米子北のこと、よくわかりました。

それから、あり方検討会については、とりあえず今のところは、現在で組織しているあり方検討会で進めていくということでございますね。いずれ時間がたったり、その時期が来たら、それだけではおさまらないと思います。どうしても、先ほども私申し上げましたけど、地域がいかにそれを理解していくかということがあると思いますので、その点のほうは、ずっと情報提供というか、そういうふうにしていただけたらと思っております。

先ほど村長がストック効果というふうにおっしゃいました。私の理解は一言で言えば、そのストック効果っていうのはインフラ整備によって得られる経済効果であるというふうに認識しておりますけれども、日吉津村が今以上に発展していくためには、この懸案の高規格道路を実現してストック効果をやっぱり求めていくんだという意味なんでしょうか、どうでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず1点、先ほど検討会の部分なんですけれども、村独自でこの検討会をする予定はないところでございますけれども、答弁の中でも申し上げましたように、これからその事業化に当たりまして、国のほうが主体となる計画段階評価でありますとか、あるいは環境影響評価といったようなところが実施されてまいります。同様に、この計画段階評価を行っておられますほかの路線の状況を見ますと、全戸に対するアンケート調査でありますとか、あるいは住民によりますワークショップですとか、さまざまな方法で住民の皆さんの御意見をお聞きするような場面も設けておられるというような事例ございますので、今後も特別に検討会を設けるわけでもなくとも、こういったさまざまな場面で皆さんから御意見をお聞きするような場面というのは出てくるというふうに認識をしているところでございます。

次に、ストック効果についての御質問をいただきました。この効果といいますのは、やはり、これも同じようなお答えになるかもしれませんが、全体の中で考えていくことだと思っております。もちろん日吉津村にとってどういった効果があるのかという部分もありますけれども、まずは圏域全体におきまして、諸般の報告のときにも少し申し上げましたけれども、やはり今後全国的に人口が減少していくということが想定をされています。この中でいかにこの鳥取県の西部であったり、中海圏域のエリアの活力を維持、向上させ、このエリアの価値を高めていくことがまずは必要ではないかというふうに考えているところでございますので、御理解いただければと思

います。以上でございます。

○議長（井藤 稔君） 河中議員。

○議員（6番 河中 博子君） 村長の説明、考え、よくわかりました。

少し横道にそれますけれども、高速道路に縁が深い道の駅について少しお話しさせていただきます。国土交通省では2020年から5年をかけて、道の駅を地域の防災拠点にするという計画を立てています。内容といたしましては、新しく防災道の駅として、全国の安心拠点になるように重点強化をすると、それから、子育て支援施設の併設など地域のセンターにするというようなことが考えられています。道の駅の一番の目的は集客です。代表的な道の駅の中には、集客的にも財政的にも大きな成果をおさめた、地元だけではなく遠方からも訪問客でにぎわっているところもあれば、他方で集客に苦戦する道の駅も少なからず存在し、どうやってにぎわいを呼び込むかというのが大きな課題となっているというふうに聞いております。

その目的を果たす一つの方法として、2017年から国内3カ所の道の駅で、高速道路から一般道に一時おりて道の駅の利用を促す取り組みを始めています。通常ですと、高速道路から一度退出して再び入場するときには高速道路料金が分断されて割高になりますけど、そういうことをなくして、それはそういう高くなるということはなくして、料金的なロスもないようにして取り組むということなんですね。

この問題の一つには、サービスエリアやパーキングエリアの休憩所の間隔が25キロ以上も離れているという空白区間が約100区間ぐらいあるんだそうでした、その休憩所不足が問題化しているということも要因のようです。つまり、私が申し上げたかったのは、米子一境港間の高規格幹線道路が決定した際、ついた際ということですかね。いかにして日吉津村におりていただくかということなんです。例えば、広く日吉津村全体を道の駅と捉えるぐらいの考え方で施策を進めることも必要ではないかなと思いました。そのためには、素通りされることなく、にぎわいを楽しんでもらえる魅力ある村づくりをしておかなければなりません。米子一境港間の高規格幹線道路に関して、日吉津村としては、こういう面にも配慮が必要ではないかと思ったものですからお聞きした次第ですが、村長のお考えを伺います。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず道の駅ということでございまして、サービスエリア、パーキングエリアのお話がございました。まずはこの件につきましては、ルートと同じで、今のところは白紙の状態というところでございます、現状として。今後具体なところを検討していく中で、話が出てくるところではないかなというふうに考えているところでございます。

その上で、村の魅力をどうつくっていくかということでございますけれども、やはり日吉津村におきまして、今あの431号線沿い、非常ににぎやかな大型商業施設であったりいろんな施設があって、非常ににぎやかな通りになっております。いかにこのあたりに、議員おっしゃいますようにおりにきていただくというか、どういった形態になるかもわからないですけども、こちらに寄っていただけるかというようなこと、あるいは、きのう少しキャンプ場の件でお話をしましたけれども、やはり海浜エリアの魅力を向上をしていって、そこに例えばキャンプをしに来られる方であるとか、宿泊をしに来られる方であるとか、そういった全体としての魅力を図っていく必要があるというふうに感じています。そして、やはり、繰り返しになりますけども、そういった全体の魅力を向上をしていく中で、日吉津村にとってもより利益のあるような計画になるように、あわせて考えてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 河中議員。

○議員（6番 河中 博子君） 備えあれば憂いなしという例えのように、いろいろ行政のほうからも、それから地域の村民のほうも一体となって、やっぱりこれはずっと関心を持ちながら進めていく問題であろうかというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

それからデータベース化についてですけども、昨年、蚊屋島神社が国の登録有形文化財に指定されたことを受け、研究をされました清水教授の現地説明会と講演がありました。その中でパワーポイントを使って丁寧に説明しておられましたけども、最後の鳥取藩家老日記の解説のときに、これはデータベース化されていて本当に助かりました、そうでなかったら探さないといけなかったんですねと言われたんです。つまり、データベース化というのは、そういう必要性和効果を持っているということなんです。

もう一つ、先ごろひえづチャンネルアーカイブスの放送を見させていただきました。小学校の総合学習で、大豆巻きだったのでしょうか、元同僚議員でありました、亡くなられた景山重信さんの姿を目にして胸が熱くなりましたけれども、この放送を見た方から、孫が映っていたので録画をしましたとか、いやあ、懐かしかったですわあといったような、そういう話をグループで話しておられました。つまり、ここではしっかりデータベース化したことが活用されていて、113で撮った収録したテープをきちっとデジタル化しておいてよかったなと改めて感じました。このアーカイブスについて欲を言わせていただきますと、当時のお子さんたちは、もうお父さんやお母さんになっておられるかもしれません。お盆やお正月に帰ってこられたときにそのテープを見て、日吉津村について語ってもらい、そういうような企画をされたらおもしろいだろうと、余談ですけども思いました。

それからあの、村誌にいたしましても、さまざまな貴重な日吉津村の資料にいたしましても、本当に記録して後世に残すという考えをやっていきませんか、時間ばかりたっていくものから、その辺のことはよく考えて前に進めていただきたいと思います。前回、国頭先生が本当に御尽力なさいました日吉津村誌の原本は残っているでしょうから、そろそろ準備しておかれたほうがよいと思います。

以上、質問2点、いろいろお聞きして理解いたしましたので、質問を終わります。

○議長（井藤 稔君） 以上で河中議員の一般質問を終わります。

○議長（井藤 稔君） 議席番号5番、松本二三子議員の質問を許します。

松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 5番、松本です。今回は2点について質問をさせていただきます。

1点目は、日吉津村のお勧め・魅力発信はということで、細かく6点についてお聞きします。

①として、以前パンフレットをつくられたが成果はあったのか。②として、一旦伸び悩んだふらさと納税の最近の現状は。③として、村外からの利用も多い図書館の状況は。④として、リップちゃんとムラッキーのLINEスタンプは。⑤として、アプリ、マチイロの利用は。⑥として、今現在、日吉津村の一番の魅力、売りは何だと思われるのか。将来的に日吉津村はどのようなべきと考えられているのか、伺います。

大きく2点目としまして、くらしの便利帳の作成についてお聞きします。先日、何げに広報ひえづ11月号をスマホで見えておりましたら、くらしの便利帳を作成しますとありました。発行は2月ということで、どういったものかと思ってお聞きします。

以上の2点をお願いします。必要がありましたら再質問をさせていただきます。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 松本議員からの御質問にお答えをいたします。

まず1点目、日吉津村のお勧め・魅力発信はということでございます。

まず、魅力について私なりの思いをお話をさせていただきたいと思っています。日吉津村の魅力でございますけれども、まずは自然豊かなところだと思っています。大山があり、日野川があり、日本海があり、そして豊かな農地があり、この上に日吉津村が成り立って、この豊かな自然があって日吉津村が成り立っているというふうに思っています。その上で、にぎやかな商業のエリアであったり、工業のエリアであったり、この活力を生んでいくエリアがあり、そして日吉津村の子育て、小学校や保育所、あるいはヴィレステひえづ、トレセンもあります。こういったも

のであるとか役場も含めて、こういった子育てであったり皆さんが集われる場所というのが大体集中をして、非常に村全体としてコンパクトにまとまっているということが1点あるかなというふうに思っています。

今、ひえづ113チャンネル、先ほどアーカイブの話もありました。過去のこれまでの映像を見ていただいて、あのころはこうだったなっていうのを思っていたくのと同時に、現在、100年後の村民の皆さんへということで、たくさん村民の皆さんのほうにインタビューをさせていただいて、それもあわせて流させていただいているところでございますけれども、その中で、多くある意見、子供がにぎやかでとか、いろいろ御意見があるというふうに拝見しておりますけれども、その中でやはり私が一番心に残るのは、今と同じように、そして活力があって暮らしやすい村づくりということだと思っております。この今と同じようにというのが、私も率直にそのように思うところありますけれども、今後これを続けていくのが実はいろいろな、先ほどもありました人口が減っていくことであるとか、いろいろな課題があるかなというふうには感じておりますけれども、やはり今と同じように活力があって暮らしやすい日吉津村というのが、やはり一番の魅力ではないかなというふうに考えているところでございます。将来的にも、ですのでそういった村づくりを行ってまいりたいというふうに考えています。

その上で、魅力発信のことについてお問い合わせでございます。1点目のパンフレットの効果でございます。これは平成27年9月に地方創生総合戦略を策定をいたしまして、取り組みを進めているところでございます。この中で、移住定住施策の一環として、日吉津村へ移住定住を考えておられる方向けに、ガイドブックひえづというものを作成し、ピンク色のB5判くらいのちっちゃいやつですけれどもこれを作成して、村民の皆様にも全戸配布をさせていただいているところでございます。こちらにつきましては、全戸配布をするほかに、窓口で転入をされてこられた方にお配りをしたり、あるいは役場の窓口に置いたり、それから県の県外事務所、東京ですとか大阪の関係機関に配架をお願いをしたり、また、東京や大阪で県のほうが移住のフェア、相談会等を行いますけれども、こちらのほうでもあわせて配っていただいたりというようなことで、発信を図っているところでございます。こちらについて、なかなか成果が見えにくいものではないかということだと思っておりますけれども、やはり、魅力発信あるいは移住定住に一定つながっているのではないかというふうに考えているところでございます。

次に、ふるさと納税の近況について御質問でございます。ふるさと納税は、平成20年に、都市と地方の税収格差を埋める狙いで始まった制度でございます。寄附先はふるさとや応援したい自治体を自分自身で選択することが可能で、寄附額から2,000円を引いた金額が、住民税や所

得税から翌年、控除される仕組みとなっています。日吉津村では、ふるさと納税の指定制度に係る申出書を総務省のほうに提出をし、ふるさと納税の対象となる団体として、令和2年9月末まで指定を受けているところがございます。

総務省のほうから、少し前になりますけれども、返礼品の上限額を決めるというような通達もあった、そういった影響もありまして、平成29年度には寄附額が2,000万円となりまして、これが前年と比べて約1,000万円の減収となったところがございます。このことに対しまして、昨年度、ポータルサイト、いわゆるインターネット上の受け付けの窓口というか、をふやす、こういった取り組みをやったり、返礼品を開拓をしたり、こういった取り組みをすることで、昨年度には4,023万5,000円の寄附があり、前年と比べて倍増につながったところがございます。今年度につきましては10月末時点で寄附額が3,825万2,000円ということで、昨年1年で4,000万だったところが、ことし10月末で3,800万にも上っているという状況でございます。これに伴いまして、12月の補正予算で寄附額を歳入を9,000万に増額することを提案をさせていただきますとともに、必要になります返礼品であるとか事務手数料等につきましても、補正予算をお願いをさせていただいているところがございます。

次に、図書館の利用状況ということでございます。図書館の利用状況につきましては、平成27年の6月の開館以来、貸出件数は増加傾向にあります。この貸出件数でございますけれども、人口1人当たりの貸出冊数というのは平成28年からずっと県内のトップということでございます。非常に多くの方に利用をいただいている状況だというふうに思っています。ヴィレステひえづの中にありますけれども、例えば大型の商業施設が近くにあったり、小学校があって芝生のグラウンドがあたり、こうしたところで遊んでいただくなど、子育てをされる子育て世代の皆様にご覧いただける場所となっているんじゃないかなというふうに感じているところがございます。ヴィレステの中にあります、交流の場となっております出会いストリート、こちらのさらなる活用も含め、図書館あるいはヴィレステひえづ全体の、館全体の魅力向上を引き続き図ってまいりたいというふうに考えているところがございます。

次に、LINEスタンプの御質問でございます。こちらのLINEスタンプでございますけれども、ことしの10月末に、リップちゃんのLINEスタンプの登録が完了をいたしました。11月のふれあいフェスタや広報ひえづ、あるいはホームページなどで周知を図っているところがございます。まだ登録数は、登録というか、ダウンロードをして購入をしていただくような形になりますけれども、まだこの数はそんなに上がってきていないところではございますけれども、スマホLINE上で使うだけではなく、12月の22日には、ヴィレステひえづで2020年の

カレンダーをつくろうというイベントがございます。その中で今回つくったリップちゃんのカットなんかも使って手づくりカレンダーをつくっていただくように、そんなことも考えているという状況でございます。

次に、アプリ、マチイロということでございます。このマチイロというのは、スマートフォンアプリの中で登録をしている自治体、地方公共団体の広報紙が見れるというものでございます。なので、これに日吉津村登録をしていますので、どこからでも村報ひえづがごらんいただけるということになっています。実際に紙媒体だけではなく、ホームページでもごらんいただくことができますけれども、そのアプリを使って手軽に、都会におられても、電車の中でも、この村報をごらんいただくことができるということでございます。こちら始めて間もないこともあって、これからその情報発信の手段の一つとしてPRを図っていきたいというふうに考えているところでございます。

特に、LINEスタンプや今のマチイロにつきましては、まだスタートして間もないこともあって、今後成果はまだこれからだと思っておりますけれども、その前に申しあげましたふるさと納税、これは、ポータルサイト、いわゆるその受け付けの窓口をふやすというようなことで、寄附額も増加をしたというふうに考えているところでございます。この選択肢をふやす、いわゆる発信をする手法もふやしていく、紙の媒体だけではなくて、LINEであったり、今のアプリであったり、そういった、いろいろな手法を使い、工夫しながら引き続き情報発信を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

冒頭、私が考える日吉津村の魅力というものをお話をさせていただきましたけれども、これは3チャンネルでもありますように、皆さんがそれぞれが、やはり日吉津村の魅力っていうのは心にお持ちだと思っております。その魅力を村民の皆様方もそれぞれが、村外の方であったり、都会に出ている家族の方であったり、いろいろな形でそれぞれその魅力を伝えていただけるとうれしかなというふうに考えているところでございます。

もう一点、くらしの便利帳の作成についてでございます。このくらしの便利帳でございますけれども、これはどういったものかと申し上げますと、先ほどありました、パンフレットを平成27年に作成をしましたガイドブックひえづ、このうち、暮らしに役立つ情報のコーナー、いわゆる村の行政情報であるとか、行政の諸手続に関することであるとか、あとはごみの出し方のことであるとか、支援制度であるとか、こういった暮らしに役立つ情報を掲載した情報誌でございます。これを、官民協働で発行するというものでございまして、年明けにはこれが完成して、完成後、納品後には村広報紙と一緒に全戸配布をさせていただく予定としております。これは、冊子

として全戸にお配りさせていただくこととあわせて、電子媒体としても納品をされる予定になっておりますので、ホームページ、パソコンやスマートフォンからも閲覧できるようにしてまいりますというふうに考えているところでございます。

以上、松本議員からの御質問への答弁とさせていただきます。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） それでは、何点か再質問をさせていただきます。村長がいきなり6番を話し出されたのでどうしようかと思いましたが、1番目からいきなりたいと思います。

パンフレットのほうですけども、これ、50万ぐらいだったか、このガイドブックひえづをつくるときにこの値段を、予算か決算のときだったんですけども、お値段を使ってどれだけの成果があるのかなという質問をした記憶があったのでお聞きしたんですけども、県外の東京、大阪に持って行って、日吉津村に帰ってきていただくなり、Iターン、Uターンを狙ったということだったと思うんですけども、一定の成果はあるような感じでおっしゃいましたので、これは引き続きまたやっていただきたいとは思いますが。

ふるさと納税ですけども、これも何か、私もこれ毎回質問してるんじゃないかっていうぐらい常連なんですけども、今回本当にふえているのがあったんですけども、ポータルサイト、先ほど言われました、ヤフーですっけ、あの辺とかをふやされたのが原因だというのが一番だと思うんですけども、これが、毎回言ってるようですけども、ふるさと納税の本来の目的、自分のふるさとのために使いたいみたいな感じのことがだんだん薄れてきてるっていうのは毎回思うんですけども、この中で、返礼品あります、いろいろ工夫されておりました。伯耆のきのこさんとか、いろんなところも出てもらって、村内の方にもお世話になってるっていうのは前回言ったような気がするんですけども、その中で、返礼品なしという項目があるんです。これが、1点でも、1点というか、一方でもあったのかどうかっていうのがわかりますでしょうか。というのが、これが本当のふるさと納税じゃないかなと思うような感じがあるんですけども、わかりましたら教えていただけると。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 松本議員の御質問にお答えします。返礼品なしというのを、細かいところをちょっと確認しておりませんので、また担当のほうにちょっと確認をして後ほど報告させていただきますけども。先ほど村長のほうからも、今4,000万近くのものが出てるということで、先ほど担当のほうから11月末の状況も確認したところ、今6,000万近くになっておりまして、この12月が一番多く来ますので、今補正予算で9,000万ということしております。

けども、もしかすると、それを超えるような勢いがあるということでもありますので、このポータルサイトをふやしたこと、それから返礼品の開発も2019年の1月から10月まで大体7項目等をふやしておりますので、そうした効果もあって、ふるさと納税が上がってきているのかなというぐあいに思っております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） わかりました。また後でお願いします。

それと、ワンストップ特例制度っていうのも、何でしょう、そのまま税金のあれはしなくていいっていうやつだと思うんですけど、このところにマイナンバーカードがあるといいですよみたいに書いてあったんですけども、やっぱりこのマイナンバーカードっていうのは、最近こういった制度には、何ていうんでしょう、便利なものなんですか。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 松本議員の御質問にお答えします。やはり、税金の申告とかっていうのは、マイナンバーカードで家でもできますし、そういうことで、マイナンバーカードの利用される方は特にそういう税金関係の方が多いということで、必要性が高いというぐあいに思います。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） ふるさと納税はまた年末にどんと来ると思いますので、楽しみにしてはいけませんけども、ふえて悪いことはないですので、よかったなとは思っております。

そしてですね、ちょっと3番目はおいとしまして、リップちゃん。リップちゃんというのだと思うんですけど、キャラクターですけども、今回の広報誌に40種類載っていたと思います。120円でした。私、前回250円くらいだっという話だったので、120円なら買いやすくていいなと思ひまして早速購入しまして、ダウンロードもしました。「ごしない」とか「いけんがん」とかという方言も使ってあって割かしおもしろいので、どんどん人に送って、ダウンロードしていただくようにしたいと思いますので、これはほんとによかったです。

あとね、一つだけ聞きたい。私が最初に聞いたときには、リップちゃんとムラッキーという話だった。このムラッキーはだめになったんでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 松本議員の御質問にお答えします。あの当初、予算でもですね、リップちゃんとムラッキーということで予算を計画しておりました、ただ、カット数に制限があって、40カットということがありまして、リップちゃんのほうが相当40カット以上出てきまし

て、とりあえず今回はリップちゃんのほうを重点的にやろうということで、40カット全てリップちゃんという形にさせていただいて、ムラッキーについては、またリップちゃんの状況を見て考えようかなということで、少し切りかえさせていただいたところでもあります。当初では予定をしていたということでもあります。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） わかりました。ムラッキーもお友達ということで、出てきましたらまたお願いしたいと思います。

5番目のマチイロのほうです。これは私すごく助かるのが、広報ひえづのバックナンバーが、本当に軽くっていいますか簡単に見れますし、村外や県外の方も見られて、若い人はこういうのを使われるのでいいなって思うのと、日吉津村のサイトに入って、関連サイトっていうことで、今うなばら荘から県立図書館、米子地区の路線バス、箕蚊屋中学校、日吉津小学校、鳥取県の外部サイトにすぐ入れるってというのがすごく便利で、今まで小学校を出すのにすごい苦労していたんですけども、本当にこういうのがあって助かっているなということであれなんですけども、このマチイロというのは、変な話、県内とか、他の行政などでもよく使われているものなんですか。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 松本議員の御質問にお答えします。全国的に広報誌としては大体500件くらいの配信があるということで、各県、鳥取県も北栄町とかいろいろ4つぐらいはあると思いますけども、日吉津村も広報紙をどこでも見ていただきたいということで、その中で子育てとかいろいろな部門が選べますので、そういう形でいろいろなところが素早く見れるということで、ぜひ活用いただければというぐあいに思っています。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 飛ぶんですけども、3番の図書館のほうです。これと、昨日も同僚議員が質問をしておられましたけれども、私も図書館には思い入れもございますのでちょっと聞きたかったんですけども、最近本当に村内、村外から多くの人に来てもらっておりまして、村外から、私はちょこちょこヴィレステにいるんですけども、見ますと、休みの月曜日、木曜日に来られる方が結構おられるんですが、返却ポストというのが入り口の前にありますので、これがすごい便利だなといって喜んでおられたのがありました。あと村内の方も、自分のブルーの袋、あれ図書館からのだと思っんですけども、返却してまた借りてっていう方がおられて、入り口で出会うと、別に見せてくれと言ったわけじゃないんですけども、こげなん借りたのよって言って、

袋から出して見せてくれるおじさんもおられます。そういうかわり方もできます。あと、貸し借りだけではなくて、認知症の予防になる、あたまイキイキ音読教室とか、昼間に来られない方にぜひ図書館を知ってほしいということで、夜の図書館、これ、よるとしよっていうんですけども、あと、子供さんにはおはなし会があって、12月はクリスマスや年末年始をテーマに絵本や紙芝居、手遊びをされるようです。これは村長は、こういう図書館の行事なりに見に行かれたってことはありますか。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。いろいろおっしゃっていただきましたけど、全部ではないですけれども、はい、顔を出させていただいたことはあります。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） ぜひ、頑張っておられるので見てあげてほしいと思いますけども、本当にいろんな世代の方が利用してくださっています。私の個人的な思いもしますと、余り高尚なことは考えずに、気軽に利用できるおらが村の図書館でいいのかなとも思っています。ただ、昨日の同僚議員の質問もありましたけれども、図書館で学習したいという高校生の話は、私は聞いていました。ちょっと耳に入ったんですけども、出会いストリートでの学習が悪いわけでもないと思うんですけども、高校生に、この子とは違う子ですけども、勉強していた子供に聞いたことがあるんですけど、別にいいですっていう子もありましたので。あと、小学生の女子が放課後、数人で高校生のお姉さんのまねをしてたと思うんですけども、丸テーブルでノートを広げて学習しているのを見て、ああ、いいなという、ほほ笑ましく感じました。どうもああいうのを見ていて憧れが出るようなんですけども、すごくいいなと思いました。

学習場所の選択肢を広げるとしたら、図書館の中の場所のとり合いをするのはなんですし、たくさん来られたときに、あなたはいいけど、もうあいてませんよというのは一番困ると思いますので、きちんと学習コーナーとして区別して、中学生、高校生も、これ本当、次の世代のために、ぜひと言われるのであれば、この際ですね、図書館の横の駐車場、あそこを学習室に増築するなどという考えはどうでしょう。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。学習室をふやしてはどうかという、増築をしてはどうかという御提案でございます。現在、夏休みなんかにおきましては、ことしなんかは、ヴィレステホールを勉強してもらうために少し開放したりということで、館内の使えるスペースを使ってもらって、そういった学習コーナーを設けたりというような工夫はさせていただいているとこ

ろでございます。なかなかちょっと増築ということはハードルが高いように感じていますが、やはり、最初に言いました、いろいろなところで勉強をしていただけるというようなことも、ニーズもお聞きをしながら考えてみたいと思っています。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 私が覚えてないだけかもしれませんが、あその駐車場のところはたしか、外でも本が読めるようにテラスのような雰囲気をつくってあったんじゃないかなと思うんですけども、もともと駐車場の考えがなかったのなら、それぐらい、それぐらいって言ったらいけない、大変なことなんですけども、ただ本当に子供さん学習していただいて、あそこを、じゃあ高校生、ここに来たらこんな図書もたくさんあって勉強がやりやすいですよっていう、それこそ魅力ですわね、そういうところに持っていくんなら、本当に、今図書館の中、広くはないです。学生さん何人来るのかわかりませんが、そこで勉強する社会人の方も結構、長居をされるので困っているっていうのもあるんですけども、そういうところも、高校生だけではいけないような気がしますので、それぐらいの考えを持っていかないといけないんじゃないかっていうような問題だと思っておりますので、私もきのう思いついたことなので、すぐにしろとはなかなか言えませんので、またそれぐらいの考えがあっていいようなことですよということをお願いしたいと思います。

ヴィレステひえづ、5周年になるようなんですが、ヴィレステっていうのは、ヴィレッジステーションですね、村の駅、これをもじったもので、公募で選ばれた名前です。本村に駅はないんですけども、日常的に世代を超えていろいろな人が往来し、出会いが生まれる場所になればという期待が込められているとホームページに出ていました。5周年を迎えた後も、10年、20年と多くの皆さんに愛される場所になるように意見や知恵を出し合っていないと思います。その点、村長、どうでしょう。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。多くの方が訪れていただくということで、先ほど図書館の話でありましたけども、村外からも6割から7割程度は図書館を利用しているということで、本当に村内の皆さんはもちろん、村外の方もたくさんお越しいただいて、本当に交流の場になってるというふうに認識をしているところでございます。そういった中で、昨日お話をさせていただいたこともありますけども、やはりこのヴィレステ、来春5周年を迎えるということで、さらに魅力向上は常に図っていく必要があるというふうに考えているところでございます。きのうありました、年に2回の検討会というか、委員会もあって、そういったところが、

まずは中心になるかと思えますけれども、そういった中でいろいろな話をさせていただきながら、新たなアイデアとかも、きのうコラボの話もいろいろいたしましたけれども、いろいろな機能と機能の間でのコラボの取り組み等もやりながら、より魅力のある施設になるように努力をしてみたいと考えています。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） お願いしたいと思います。

6番に行きます。村の魅力、最初に村長が思いを語っていただきました。最近、子育て支援策とか人口増加という点から、日吉津村に視察に来られることがすごいふえています。そこで必ずといっていいほど言われることなんですけども、ここはとても村には思えない、もっと山や田んぼばかりの田舎だと思って来ましたという声が多いんですね。これ鳥取県の唯一の村だというイメージだと思うんですけども、先ほど商業地域、工業地域はもともとですけれども、発展というべきだと思うんですけども。次々と大型店舗がまだこれからふえてきます。田んぼだったところが宅地になり、家がふえてきて、景色が変わっていることにすごく戸惑うという声もあるのは確かなんですね、本当に久しぶりに帰ってきたら町が変わってみたいいな感じ。もっと田舎でもいいのってという声を村長はどうお考えになるでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。やはり、いろいろな方がおられて、いろいろな御意見があると思っています。特にやはり、何年かしばらく村外に出ておられて、久しぶりに帰ってこられると、発展というか、様子が変わっている状況にびっくりされるというような方もあろうかと思えます。私なんか外に出ていた時期もあって、帰ってきますと、すごくやっぱ発展したなというふうに感じた記憶もございます。冒頭の思いのところでも申し上げましたけれども、やはり我々も小さいころは、ここまで発展をしてない中で、田んぼに囲まれて育った世代でございますので、そういった自然があふれる豊かな農地があるという部分は、やはり大事に今後もしていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 本当にいろんな考えがあって確かだと思うんですけども、余にも急速にふえていってるのは本当にあるので。私はもともと米子なんですけども、日吉津村の同級生もいます。その子たちが若いときは、本当に米子で知らない人と話したときに、どこの人って聞かれたら、日吉津村とは言わなかったんですね。昔、私たちのころは米子ですという返事をするぐらい、村ということが、恥ずかしくはないんですけども、言いにくいというような世代で

すので、本当に。ただ、私たちはまだ子供がちっちゃかったときなんか、やっぱり家を建てる時は郡部ではなく米子市にっていう風潮があるようなときだったので、今は本当に日吉津って、どこに住んじょうなるって聞かれて、日吉津ですって言うと、いいなって言われるので、本当にそれくらいの日吉津村のイメージというか、株が上がるっていうんでしょうか、なってきたのは確かだと思うので、本当に違うなというように感じます。ただやっぱり、住みよいところって日吉津音頭にもありますけれども、住みやすいというのが皆さんにとって同じではないはずですので、その辺がやっぱり、この人にとっては住みやすいけれども、この人にとっては住みにくくなってしまったという点がこれから出てくるような感じもありますので、すごくその辺を心配、心配ではないんですけども、ただそれになれていくしかないような気もするんですけども、本当に大きな店舗が建ち出して、道路があるのが一番、今の心配なんですけども、小学生の保護者さんからも声は出ています。あの辺のやっぱり大きなものができるたびに、子供が歩くところが狭くなってる、自転車が本当にこれで通れるのかっていうような、その辺の今の段階での話はどうなっているのかというのをちょっとお聞きしたいと思います。いいでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。通学路の関係の御質問でございます。8月から村長と語る会をさせていただいて、それぞれの自治会でいろいろお話をお聞きをする中で、やはりその交通の課題、問題というのもお話をいただいたところかなというふうに思っています。にぎやかになる一方で交通量もふえてくる、その中で子供たちが安全に登下校できるということは、常にやはり注意していかないといけないところだなというふうに思っているところでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 私は上二なんですけども、431の辺にそうそう行くことはないっていうのも変なんですけども、今吉とか富吉の方に比べれば見る機会が少ないのが上二のあたりの方たちなので、本当にたまに行くときびっくりするって言われるのがあるので、その辺のやっぱり同じ村内でも認識の違いがあるのかなというのがあるんですけども、その辺本当に考えていただいて、事故がないのが一番ですけれども、そういう点は考えていただきたいと思います。

最後なんですけども、村長と語る会とかで、村長がよく100年先の話をされるんですけども、上二のあたりで、この100年先の捉え方、わしゃもう生きちょらんわという方もおられますし、そういうのでどう説明していいのかわからないという点があるんですけども、この100年先っていうのが、住みよい日吉津とよく言われ、100年先も住みよいて。この100年

先って、私、嵐の歌ぐらいしか思い浮かばないんですけども、村長としてそういう、どういうことで説明してあげればいいのかというのをちょっとお聞かせください。済みません、突然ですが。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 100年先の捉え方についての質問でございます。この100年先ということで申し上げさせていただいていますけれども、必ずしもちょうど100年後という意味ではございませんで、やはり今のこの魅力的な日吉津村を子供たちや孫たち、さらにもっと次の世代にも伝えていきたいというような思いから、100年先の将来を見据えながら、10年先のことも念頭に一つ一つ取り組んでいきたいということで申し上げさせていただいているところでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 10年、20年、30年の先が100年だということで理解はしますけれども、一番最初に言われたところ、今と同じようにというのは、やっぱり私はどうもひっかかってしまったんですけども、これ、今と同じにできるわけではないような気がするんです。ただ、今が一番いいというわけでもないような気もするんですけども、その辺のところを継続的に将来的にもということだったんですけども、さっきの本当にアーカイブ、私も娘が映っておりましたので録画したんですけども、前回のときに、2人とも映ってましたので、ありがたかったなと思うんですけども、本人たちは、よく自分のちっちゃいときはわかっていないようで、小学1年生ぐらい、もう20歳になる子ですので、誰って聞かれたんですけども、自分だということも理解してもできなかったようなんですけども、ちょっとそこで家族で話ができたといいありがたかったかなと思いますけれども、今と同じようにというところの点をもうちょっとわかりやすくしていただけると、済みません、お願いします。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今と同じようにと申し上げました。これは、最初にも申し上げたんですけども、113チャンネルで、アーカイブとあわせて村民の方からも100年後の日吉津村、どうなっていてほしいかというようなことをお聞きをしているところでございます。その中で、心に残っているのが今と同じようにということだったものですから、そういったお話をさせていただいたわけですけども、やはり議員もおっしゃいましたように、今が一番いいという状況でもないということだと思っておりますし、よりよくしていきたいという気持ちはもちろん持っています。その中で、先ほど自然の話もありましたけども、やっぱりいいところは

しっかりと後世に残していきたいという気持ちで申し上げたところでございます。なので、発展ということも図っていく必要はありますけれども、やはり次世代に残していきたい、いいところはしっかりと残していくべきという思いから、そのように申し上げたところでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） わかりました。今と同じようっていうのを答えられる方は、今がすごく幸せだなということで、一番いいことだと思います。済みません、余計な質問だったかもしれない。

最後なんですけども、最後がさっきから言ってますが、2点目のくらしの便利帳、これはすごく興味を持って見たんですが、ちらっと見ただけなんです、村報に載っていたので。これ、官民とおっしゃいました。書いてあったのが役場での各種手続などに関する行政情報や地域情報、これを掲載したものであると。企業などの広告を活用して、官と民で協働して作成するとあったんです。これ、初めて見たような気がするので、これ、今までにもこんなことがあったんでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 松本議員の御質問にお答えします。この官民協働事業というのが2007年からスタートしておりまして、大阪の和泉市がスタートということで、それからずっと自治体が参加をしていって、県内でも19自治体中15自治体が参加ということで、今回、日吉津村もこれに参加するということでしたものでありまして、先ほども最初、ガイドブックの英語版といいますか、これの実は後ろ、ピンクのところは、くらしの便利帳つきということで、くらしの便利帳になってるんです。村長と語る会でも、このガイドブックを差し込みがかけられるようにしたらという御意見もあったりして、村長もかわられてますし、この改訂版をどうするかという話の中で、やはりくらしの便利帳というのを、ちょうどそういう話があったので、このくらしの便利帳、こういうものを一応つくって、後ろにあるようなものを、先ほど言った役場の手続とか制度とか、いろいろなことがわかるようなものを大きい判でつくったらどうかなということで参加をするということで、確かにこの中には広告が載せられるようになってまして、各事業者、村内の事業者に広告を、していただくところがお願いをして、広告をとっていただいているということで、その広告のお金を利用して国からの補助金とか、多分そういう形で官民協働ということでつくっておりますので、全国でも今、900、1,000に近い自治体が利用されてるということで、今回、これに切りかえていこうかなということで。また3年から4年ぐらいで更新もして

いただけるようですので、また中身が多少変わってきたりとか、そういうことがあれば改正もしていこうかなと。ガイドブックの、このくらしの便利帳以外のところですね、そういうのは移住定住のこういうパンフレットとかもありますし、そういうものはまた別で考えていこうかなということですね、いろいろ工夫をしながら村民の皆さんにも知っていただきたいと思いますし、村外の方にも魅力発信ということで続けていきたいなというぐあいに思っています。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） これ、村内の企業でしょうか、企業というのは。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 連携団体は村内ではありませんけど、広告を今お願いして回っているのは村内企業にということで、事業者さんが回っていただいております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 結局、企業広告を載せてあげてお金を、これは一定なのかということと、今もう募集はされているのかな。今の段階はどうなんでしょう。

○議長（井藤 稔君） 高田総務課長。

○総務課長（高田 直人君） 事業者さんが回っておられまして、金額が結構高いもので、例えば1枚全部載せると60万ぐらいだとか、ちょっとこういうもんだと5万とか、いろいろあるようでして、必ずしもそれをしないといけないということではないですけど、そういう広告を協力をいただいているということです。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 結構、広告っていうのは多くありまして、米子市かな、市報とかにも広告載っているとこもたくさんあるので、これはいい方法だなと思うんですけども、ぜひとも村内の企業さんにはしていただきたいと思うんですけども。

時間ちょっと余ってますけども、最後に、これ村の転入者にも配布とありました。以前、これは住民課長にお聞きしたいんですけども、転入者の方に、私、自治基本条例、日吉津村の、これを転入された方に一緒に配られたらどうですかと総務課長に言いましたら、ぜひとおっしゃったんですけども、これ今は配っておられるんでしょうか。そこのところを住民課長にお聞きしたいんですけども。

○議長（井藤 稔君） 清水住民課長。

○住民課長（清水香代子君） 松本議員の御質問にお答えいたします。今のところ、配布はしていないと思います。このガイドブックで村内の御案内等はしておりますけれども。ちょっと自治基

本条例についての確認ができかねるんですが、していないと思います。以上です。

○議長（井藤 稔君） 松本議員。

○議員（5番 松本二三子君） 私が、前回、日吉津村の自治基本条例の質問をしましたときに、総務課長だったと思います、村長ではなかったと思いますが、いいことですので、ぜひしていきたいとおっしゃいました。次からしていただけるのかなという願いを込めて、終わりたいと思います。以上です。

○議長（井藤 稔君） 以上で松本議員の一般質問を終わります。

○議長（井藤 稔君） それでは、10時35分まで休憩とします。

午前10時20分休憩

午前10時35分再開

○議長（井藤 稔君） 再開します。

引き続き一般質問を行います。

議席番号3番、橋井満義議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 議席番号3番、通告順8番、橋井満義でございます。ただいまより、議長のお許しをいただきましたので、令和元年第4回12月定例会におきます一般質問をさせていただきます。一般質問につきましては、皆様、お手元に配付のとおり、一般質問通告書に基づいて質問をさせていただきます。

このたびは、大きく2点について質問をさせていただくものであります。ケーブルテレビごらんの方は、画面下のテロップに出ておるとしております。質問の事項及び要旨につきましては、1点目、村の土地利用状況の詳細はということと、2点目、村内の幹線道路の整備計画を推進ということの2点でございます。

まず、1点目につきましては、大きく3点を質問させていただきたいと思っております。

まず、この1点目、村の土地利用状況の詳細はということですが、本件につきましては、昨年度に、長年、30年来でありましたT氏との土地問題の終結による結果の土地の利用方法でございます。これらの土地につきましては、村内の今吉、海川新田地区に散在する土地についての現状と、今後の活用を含めての見解を求めていきたいと思っております。

それから2点目ですが、村の農業が抱える課題といたしまして、その将来のあり方については、多様な生活形態や交通事情等が相まって、先が見えない状況だと思っております。しか

し、手をこまねいては、ただ惰性化してまいるのみであると思っております。防災対策同様、みずからの地域はみずからが決め、行政はその課題解決の仕組みづくりを、そして個人の資質に頼らないよう努めるべきであると考えております。そして、農地の未来を考えるアンケートが8月に行われたわけであります。その結果についてのデータ詳細を提出の上、説明を願いたいと思っております。

それから、本12月定例会の終了後に、皆様、今月の12月4日からでありますか、農地の未来を語る会が開催予定となっております。本日よりスタートということではなかったでしょうか。これらに参加対象にされておられる方は、どのような方をメインとしてこの語る会に出席をされる予定になっておられるのでしょうか、お伺いをしたいと思います。

それから、大きな2点目、村内の幹線道路の整備計画を推進してほしいということでございます。皆様、御承知のとおり、村内の道路事情は、商業施設や住宅地の拡張などにより変化をしてみました。しかし、これらに追従した状況とは言えないところが多数見受けられることとなっております。そしてこのたび、431号線南側におきまして、オリックスによります大規模な造成工事が始まっております。商業施設の開店後の交通形態は大きく変わると想像がつくものでございます。これらについての所見をどう感じておられるのか、そして今後の予測をどう捉えておられるのかを問うものであります。

それから、村道の各路線図における路線番号であります。各議員におきましては、執行部並びに私のほうから別添の資料を提出をさせていただいております。これは、村内の資料の2番、道路網図でございます。これを参照の上、路線番号25、32、34、37であります。これらの路線番号の25番、海川西川線、路線番号32、橋通道線、路線番号34番、宮川北線、路線番号37、古屋敷線、これらについての所見を伺いたいと思っております。これらにおける交通状況と幅員について、現状の認識と将来計画の見通しをどう捉えておられるのか伺っていききたいと思います。

それから、最後になりますが、これらの道路事情等、村内の自治会から要望等、道路整備に関する意見を、出しておると聞いております。これらをどのように集約をされておられるのか、お伺いをしたいと思います。村長の答弁を問うものでございます。

以上、よろしく願いをいたします。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 橋井議員からの一般質問にお答えをしてみたいと思います。

まず、大きな1点目で、村の土地利用状況につきまして御報告をさせていただきたいと思いま

す。

何か所かございますが、まず1カ所目でございます。これは土砂の一時仮置き場につきまして、うなばら荘のところより少し南東に行ったあたりになりますけれども、こちらにつきましては、本年5月に工事を完了をいたしました。8月から3自治会が土砂の仮置き場として、いわゆる川ざらいで出た泥等について搬入をされているという状況でございます。今後は、地元自治会での2回の説明会でいただきました御意見も参考に、12月から周囲にフェンスの設置工事をする予定にしています。

次に、小学校の水田と保育所のサツマイモ畑でございます。小学校の水田につきましては、うなばら荘のほぼ真ん前のようなところにありますし、また、保育園のサツマイモ農園につきましては、西側の近くのほうにあるということでございます。こちらの2カ所につきましては、小学校及び保育所の子供たちの、水稻あるいは野菜の栽培体験のための圃場として利用してもらっているという状況でございます。この大部分の作業につきましては、村内の農業者の皆様のご協力をいただきながら実施ができていることを、この場をおかりしまして感謝を申し上げるところでございます。

こういった指導や、あるいは米ができるまでのことにつきまして学習をしながら、子供たちが田植えであったり稲刈りであったり、ことしはハデ干しということで、ハデを組んでいただきまして、米を刈った稲、米を天日干しするというような体験もさせていただいております。また、サツマイモの芋掘りなど、子供たちが体験をさせていただいているところでございます。できた米につきましては、自然乾燥した米を学校で塩おにぎりにしてつくったり、あとは保育所のほうでもその米を食べてもらったりということで、その体験とあわせて食育というような面でも、子供たちが日吉津で自分たちが力を入れてつくったお米を実際に食べてみるというような、おいしい米を食べる、お芋を食べるというような体験をしまして、子供たちの食育に役立っている、また農業者の皆さんと子供たちの交流が図られているということで、非常に効果がある事業であるというふうに感じているところでございます。

次に、栽培実験農場でございます。こちらにつきましては、廃菌床の農作物への有効性の検証を図るための実験を行っています。今年度、本村の地域振興作物であるネギにつきまして、幾つかの施肥方法により取り組みを実施をしているということでございます。このネギにつきまして、2月ごろの収穫の予定でございますので、年度内には一定の結果が出る予定でございます。3年をめどに、この後もほかのやり方やほかの作物でも実験をいたしまして、この試験結果の情報ができるようにしてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、もう1カ所、村民農園、これも西川の近くになりますけれども、こちらは、野菜などの栽培を通じ、自然に触れ合っていただく場、農業理解を深めていただく場などとして、利用価格を設定をし、有料でございますけれども、農地の貸し出しを行っているところでございます。1区画当たり56平方メートルと、やや広目の設定にしており、合計16区画を整備をしています。このうち、現在、利用は1区画ということでございます。これまでケーブルテレビや、防災無線、広報紙、ホームページ等で周知を行っているところでございますけれども、現状としては1区画の利用ということにとどまっています。当初、村民の方につくっていただくという要件をつけておりましたけれども、やはり利用促進を図っていく観点から、住所の要件、日吉津村に在住という要件を7月にはこれを解除いたしまして、現在は村内外含めて御利用いただける格好になっておりますので、ぜひ御利用をいただければというふうに考えております。

次に、農地の未来を考えるアンケートについてでございます。こちらにつきましては8月にアンケートを実施いたしまして、非常にお答えにくい問いかけもあったかもしれませんが、多くの皆様に御回答をいただきましたことを、心より感謝を申し上げます。

回収をいたしまして、11月末現在で集計をいたしました結果の概要でございますけれども、配布数が437件のうち回収が230件ということで、回収率は52.6%でございます。アンケート結果でございますけれども、全体として、後継者の有無、これが後継者がいないという回答をされた方が55%ございました。その中で5年後の農業経営について、現状を維持したいという方が47.4%ということで、約半数は現状維持していきたいという御意見でございました。あわせて、縮小なり、もうちょっと厳しくなってくるというような御回答も、これが40%程度あったという状況だったと思っております。

本日より、農地の未来を語る会ということで、村内6カ所にて開催をさせていただくところでございます。参加者につきましては、村内農地をお持ちの村内在住者の方を対象に御案内を差し上げているところでございます。各自治体の実行組合に所属をされておられる方はもちろんのこと、実行組合に所属をされておられない方につきましても、住所地を勘案し、居住自治会公民館での開催日のチラシをお送りをしているところでございます。また、村外におられる農地の所有者の方につきましては、アンケート結果を郵送等でお知らせをする予定にしています。本日から開催いたします農地の未来を語る会におきまして、アンケートの結果からわかる集落それぞれの課題に対応した対策の検討、これを御参加いただきます皆様にも御意見をいただきながら検討を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

次に、村内道路の整備計画の関係の御質問でございます。

まず、431号線南側の、現在、造成工事が行われております商業施設の開店後の周辺道路における交通量の変化等の検証につきましてでございますけれども、こちらにつきましては、大店立地法並びに、今回、地区計画を計画をして進めてまいっているところでございますけれども、この届け出等の手続の際に、交通量の予測につきまして、道路構造令に基づいて算出をされているものがございます。2点ございまして、検証項目1点目は、周辺道路における交通渋滞の発生として、主要な来店・帰宅経路であります国道431号及び県道日吉津伯耆大山停車場線の混雑度。検証項目もう1点は、周辺道路の交差点における交通障害の発生として、主要な交差点であります国道431号の日吉津交差点と、日吉津東交差点の飽和度を検証しております。

1点目の道路の混雑度につきましては、これは計算式がございまして、数値が1未満であれば道路が混雑することなく円滑に走行ができるとされているものでございます。これは出店後の数値になりますけれども、国道431号は平日が0.71、休日が0.67でございます。県道につきましては、平日が0.57、休日が0.59ということで、両道路とも混雑度が1.0未満となっておりますので、渋滞等の発生が予測をされているものではございません。

次に、2点目の交差点の飽和度につきましては、これは0.9を超えると1回の信号サイクルで車が処理できず、交差点で渋滞が発生することとされているものでございます。この数値を申し上げますと、日吉津交差点、こちらは平日0.45、休日0.46ということでございます。日吉津東交差点におきましては、平日0.34、休日0.45と、全て0.9を下回っておる数字でございます。特に日吉津東交差点での現状は認識をしているところでございますけれども、数値的には申し上げましたような数字ということで、新しい店舗ができることによってさらに、さらにというか、渋滞が発生をしたりだとか、交差点での待ち回数が多くなったりだというようなことが予測されているものではございません。

次に、村道海川西川線、橋通道線、宮川北線、古屋敷線の交通現状と、幅員についての現状認識と将来計画の見通しについてでございます。道路につきましては、基礎的な社会資本として大変重要でございます。こちらにつきましては、適正な維持管理に努めるとともに、交通の安全を確保、道路交通の円滑化等のため、必要な改良などもしていくことが求められております。本村におきましても、通学路の安全確保や、路線の重要度、財政事情などを総合的に考慮し、優先度の高い箇所から順次取り組んでおります。橋井議員のほうからは、9月議会で道路の補修についての御質問もいただきました。こうした長寿命化を図っていくということも、今後これから大変重要になってくるというふうに考えているところでございます。交通安全対策、通学路の安全確保として、住民の方からの要望が高く、本村の重要課題であります村道役場線と村道2号線の交

差点改良事業が、このたび国の社会資本整備総合交付金事業として事業化が認められましたので、この12月定例会で補正予算として一部計上をさせていただいております。本事業の実施には、これも費用と期間を要するところがございますけれども、早期の完成に向けて努めてまいりたいと考えているところでございます。

今後も、先ほど申し上げました長寿命化や通学路の安全確保など、優先度の高い箇所から必要な改良を行ってまいりたいというふうに考えております。議員から御質問のありました村道につきましては、幅員が十分ではない箇所もあるものと認識をしておりますけれども、現時点で改良の計画があるものではないということでございます。

最後に、自治会からの要望で、道路整備に関する意見は集約をされているのかという御質問でございまして、こちらにつきましては、毎年、各自治会から自治会要望をいただきまして集約をさせていただいております。道路だけでなく、交通安全の関係ですとか農地の関係ですとか、さまざまな要望をいただいております。これは集約をいたしまして、そのときに可能、不可能はございますけれども、各自治会のほうにお返しをさせていただいているというところでございます。

以上、橋井議員からの御質問への答弁とさせていただきます。

○議長（井藤 稔君） 一般質問の途中でございますが、ここで一時休憩とさせていただきます。よろしく申し上げます。

午前11時00分休憩

.....

午前11時03分再開

○議長（井藤 稔君） どうもJ-ALERTの訓練終了のようですので、御承知おきいただきたいと思っております。会議を再開いたします。

一般質問を引き続き行います。

橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 若干の時間をとられましたけれども、これも訓練ということで、大事なことかなというふうに思います。

先ほど、村長のほうから御回答いただきました。いま一度、再質問させていただいて、質疑の内容を改めて問っていきなというふうに思っております。

まず、順番にいつてみたいと思っております。まず、村の土地利用状況の詳細はということで、その中の1点目は、土地利用の状況については、皆様のお手元には、このように私からの配付資料で

村の土地利用の状況ということで御提示をさせていただいております。先ほど、これらの各土地について御説明がありました。順を追っていきたいと思います。

まず、確認を含めてですけれども、この土砂置き場となっておりましたのは、従来、ある方の土地といいますか、宅地内、隣接する場所、これは善意といたしまして、そこの方のところでお願いをして、川ざらえ等の土砂を堆積させていただいておったということで、そして、今、村長からの報告でありましたとおり、5月にはこれを整備いたして、8月より搬入を行い、そしてこの12月といいますと、今月12月にフェンスを施工し、危なくないようにするという事で間違いないでしょうか、再度。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。おっしゃいましたとおりでございます。12月からフェンスの設置工事を開始をするということでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 了解をいたしました。特に残土等、子供たちが入って危ないということもありますので、これについては速やかな施工をお願いしたいというふうに思います。

次、小学校の水田ということでありました。この水田について、再度質問をするものでありますけれども、この水田を撮影いたしましたのは、きょうが12月の4日になりますので、たしか1日か先月の末のどちらかでした。これが全景であります。うなばら荘の前にあります。既にきれいに、ここは水田の後を耕うんをされて、真っさらな水田圃場というふうになっております。ハデをかけられてたということまで私は存じ上げませんでしたので、大変申しわけなかったなというふうに思っております。

それで、これらについて、まず、管理は農家の方をお願いをしましたということで、村長からの答弁はございました。その農家の方というのは、個人の方であるのか、組織の方であるのか、その内容はどういう労務をお願いをされておったのか、まずそこ、お願いします。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） 橋井議員の御質問にお答えします。小学校の農園の管理につきましては、農家の方ということで、法人ひえづの方、それとあとは富吉の地域資源保全会の方、こういった方に管理なり田植え、収穫等のお世話をいただいております。そういったような団体に所属する方を中心ということでございますけれども、それぞれの作業については個人の方をお願いをさせていただいたということでございますし、機械等、そういったような刈り取りでありますとか作付、そういったようなところについては法人のほうにお世話になったというような

経緯がございます。それとあと、水の管理につきましても、個人の方にお世話になったというところがございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） わかりました。要するに、法人ひえづ、富吉保全会をメインとして、あと、細々したところは個人にもお願いをしたということがわかりました。

それでちなみに、これらについては、ただでということではないですけども、労務賃なり、機械の損料、さまざまなことが発生をしておると思いますけども、その会計システムといいますか、それはどこから支出をされて、どういう費目でこれは捻出されたといいますか、費用を充てられたということなんでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） こちらのほうの予算につきましては、農業費、農業振興費というところで、保育所農園事業、小学校農園事業、そういったようなところから支出をさせていただいておりますけれども、お支払いさせていただきます費用につきましては、こちらのほう、農業委員会のほうで出させていただいております賃金表に基づきまして、時間数なり、日数、そういったようなところで計算をさせていただいて、お支払いをさせていただいております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 要するに、建設産業課の農業振興費の費目の中から支出をしておるということで賜りました。そうしますと、特に、ここに堆肥の圃場部分があるんですけど、これについては現在進行形ということで、今回は先ほどお聞きしたということでここは了解をしたいと思います。

まず、村民農園と保育所の農園の部分についてなんですけども、これも同様に、やはり芋を掘ったり、芋のマルチを張られたり、施肥をしたり、さまざまなことがあったと思いますけども、これも同様ということで理解していいんですか。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） 保育所農園につきましても同様でございます、法人の方でありますとか、あとは保育所の保護者といいますか、おじいさんといいますか、そういったような関係の方についてお世話になったということでございます。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） わかりました。これが保育所の芋を掘った後の圃場の跡です。そ

れで、同様に農業振興費から水田の部分と、保育所の芋掘り代、そのメンテナンス、さまざまな管理は捻出をされたということでありました。その費用の云々というのは、農業委員会の労務賃金表がありますので、それに基づいてお金は支出をした、わかりました。

そして、この芋の苗代とか、稲の苗代についても同様ということで理解をしてよろしいんですか。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） 苗代につきましては、水稻のほうについては、法人ひえづのほうにお世話になってつくっていただいた分、それを買わせていただいたということでございますし、芋のほうについては、JAのほうから購入をさせていただいたということでございます。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 法人から稲の苗代は購入をした、芋の苗代はJAから購入をした。購入先はわかりました。これも地域振興費に、農業振興費に含めたところから支出をされたということですか、そこを確認しておきます。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） 農業振興費のほうから支出をさせていただいております。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 時間が余りありませんので、ちょっとえらいピンポンのような質疑になって申しわけありません。

わかりました。ということで、小学校水田並びに保育所の芋についてのさまざまな経費については農業委員会の作業支払い報酬金額に基づき支出をし、そしてそこに農業振興費の名目でお支払いをしたということであります。今回はその先の部分のお聞きしたいなということは、どれだけの支出金額で、それに対するコストパフォーマンスはどうかということをお聞きを本当はしたいんです。それで、お金のことは、またいずれ決算なり云々でわかると思いますけども、その中で村長からの答弁もありましたとおり、これは小学校の児童さん、生徒さんたちのやはり体験とかさまざまなことを、いいこと、そこにも効果があった。そして保育所の子供さんたちも、芋掘りをするによって土と交える云々があったということをお聞きをしました。

そこで、回答の方を私のほうが指名をするというのは適切かどうかわかりませんが、小学校としての考え方については、一度、教育長の所見をお伺いをしたい。そして、保育所については、福祉保健課長がおられますので、保育所のそういう成果についてどのようにお考えかということをお聞きをいただきたいと思いますというふうに思います。

○議長（井藤 稔君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 橋井議員の御質問にお答えいたしてまいります。どういう内容でどんな成果かということであろうかと思いますが、子供たちが体験すること、これは何よりの勉強であろうかと思いますが。一番の成果は、日吉津での水稻栽培のあり方を知ったということですね、知るということが一番大切だと思います。そのことが行く行くの日吉津の次代を担う子供たちに成長していくということにつながるということが一番大きな成果であったというふうに思います。11月入りまして、ハデ干しのお米が精米されて届きました、学校に。家庭科室でお米を炊いて、給食調理員さんが塩むすびをつくって、おいしくいただきました。おかずは、担任が用意しましたかつおぶしの、かつおぶしを削る道具、かつおぶしのかたいものを持ってきて、道具で児童の前で削って、それを花がつつおと手づくりのキュウリの浅漬けをおかずにして塩むすびを食べたと。とっても子供たちはおいしいと言って食べました。学校給食のお米も稲刈りをしたお米を使って給食を食べました、1年生から6年生まで。きぬむすめ、405キログラムございますので、しばらくこのおいしいお米をいただけるという状況でございます。結果的に子供たちはいい体験をさせていただいて、おいしいお米をいただいた、このことはきっと心に残って、日吉津のよさを体験したということになると思います。以上です。

○議長（井藤 稔君） 小原福祉保健課長。

○福祉保健課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。芋掘りがどのような効果があったという御質問ですけれども、私は収穫のときとかは立ち会ってはおりませんけれども、年間にすればわずかな本当のひとときにすぎないかもしれませんが、やはり子供たちがそこで農業体験ができたというのは、貴重な経験になっているんじゃないかなというふうに思います。それから、保育所の秋祭りのときの焼き芋を提供をしたということで、これは自分たちが収穫した焼き芋なんだよということを家族みんなで共有しながらその芋を食べるということでは、非常に意味はあるものじゃなかったかなというふうには感じております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） ありがとうございます。教育長、ありがとうございます。小原課長、ありがとうございます。

皆さんがやはり小学校並びに保育所に対する所見をきちっとお持ちいただいたことは、お礼を申し上げたいなというふうに思っております。村内の有効な土地利用のあり方について、このたび問っておるものでありますので、やはり有効活用しながら、そしてこれは一時的なことでは終わらないように、継続をして、さらにまた担当課で取り組んでいただきたいということは申し添

えておきたいというふうに思います。

次に、これ長くなってもいけませんけども、村民農園、これが村長も思っておられるとおり、1名の方ということで、ちょっと残念な結果であります。私、これを撮りに行きましたのは、たしか11月30日か1日だったと思いますけど……。もとへ、その前ですね、一般質問の通告を出しておきましたのが先月の21日ですか。ところがここで見ますと、写真では草がいっぱい生えておりましたけども、その3日、4日後ぐらいには、どうもここ、きれいになっちゃって、写真の状況と違う風景に実はなっておりました。課長、嫌みではないですけども、村長、きょうはいい御答弁をいただいたと思います。村民の方ばかりではなく、やはり有効に土地を利用することは、広くさまざまな方にも声をかけていただいて、もっともっと広く有効利用を私はしていただきたいというふうに思っています。遊ばせとったって、あそこからお金を、そんなにたくさん税収が上がるわけでもないわけですから、わずかででもそこを使っただくということは、やはり環境の、草も生えないし、有効に使っただいて、やはり村の土地でできた野菜を食べるとおいしいなというふうに思ってもらえるのが一番なわけですので、そこについては、さらなる募集の努力は、未来を語る会の中でも大いに宣伝をしていただいて、拡大をしていただきたいということはお願いをしておきたいと思います。最初の点ばかり長くなってもいけませんので、土地利用についての話題はそこで終わっておきたいと思います。

それと、未来を考えるアンケートが8月に終わりましたが、その結果について、データを提出の上ということでデータを出していただいております。この中で、やはり全体集計と、販売農家、自給農家の2種類があるわけですけど、若干ここで特異なパターンがあるなというふうに思っておりますのは、年齢的には、やはり総体的に70代、60代がこの日吉津の農業を支えておられるメインの方だということは一目瞭然だというふうに思っております。それから、農業者の後継者がいますかというところで、いないという方と、検討中ということと、これらがおおむね三十五、六%から4割近くがここで同じということで、ほぼこの農業後継者がいない方と検討中ということの部分では、やはり迷われておられる、どちらに記載をしようかなという人もおられるんじゃないかなということが見えておるように思っております。全体としては、おおむね半数が後継者がいない。それで検討中というのの中では、25.2%とはなっておりますが、販売農家や自給農家の部分では、これがおおむね35%でありました。ということで、全体として見れば半分は後継者がいないということで、これこそやはり困ったなということが現状では大変重たい課題かなというふうに思っております。

それから、この部分だけを長く言っておいてもいけませんけども、びっくりしたのが、この間

いの3番です。農業を縮小したい、やめたいと回答した方で、今後、農地をどのようにしていけますかというこの回答の中で一番大きなウエートを占めたのが、売却したいが46%。おおむね半分弱が売りたい。そして、売るのは嫌だけでも貸したいが35%。大きなこの2つがウエートを占めている、日吉津農業のあり方の今後の農地の使い方。これはやはり課題が一番大きいので、このアンケートを含めた未来を語る会では、農家の方なり、それらの方々ときっちりこのお話しはしていただきたいというふうに思っています。

それで、この最後になりますけども、語る会がこのたび始まるようになっております。冒頭にも申し上げましたとおり、開催の案内状がこのとおりです。本日12月4日からスタートをいたします。最終日が12月12日木曜日まで、7自治会回られます。それで、私この案内をいただいております、その前に。そこで、農地をお持ちの方、農地を現在貸しているけども農地の所有権がある方というふうに限定をされておりますけども、私、こういう未来を語るのであれば、それ以外の方でも、興味があったりこれから農業をやってみようかなという方にも声かけをしていただけなかったのがすごくちょっと残念に思ってるんですけども、その点に関する私の考え方はいかがなものでしょうか、どう思われますでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 益田建設産業課長。

○建設産業課長（益田 英則君） なかなかそちらのほうまで声をかけるというような発想がなかったといえますか、ちょっと足らんかったところかなというふうに思っております。さまざまな御意見が聞ける可能性はあったのかなというふうに思いますので、今後の検討ということで、このような座談会等を実施する際に、またそういったような非農家の方等についても声かけが可能かどうか、その点について、また検討させていただきたいと思っております。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 私1人の所見を申し述べて、これがやっぱりこういうふうにはせよとか云々ということではなくて、やはり農地なりを考えていく上には、逆に農地とか、農業をされてない方の意見って、聞いてみると、本当逆に気がつかなかったり、やっぱり視点が違えばそうなんだということが多々あります。今回はそういうふうにしてもう本日から始まってはまいりますけども、今後はやはりその辺では広くお声がけをして、農地をお持ちでない方も、そういった部分で広く識見を広めていくのが村のためにはなっていくんじゃないかなというふうに私、思うんですけども、村長、その辺についていかが、御見解は。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今回の農地の未来を語る会につきましては、特に、

やはり農地をお持ちの方であったり農業をされてる方にアンケートをとった、その結果も踏まえて、お持ちの土地、農業をこれからどうしていくのかということをお農家の方に考えていただきたいという趣旨から、開催を思いついたというか、開催するものでございます。おっしゃいますように、農家以外の方にもやはり日吉津の農業の状況を知っていただくべきというような話は農業委員会のほうでも話題になって、そういった検討もいただいているというふうにお聞きをしていますので、ちょっとこういった形になるのかは検討ですけれども、やはり非農家の方にも日吉津の農業のことを知っていただくというような工夫、取り組みは検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） ありがとうございます。建設的な見解をいただきましたので、ありがとうございます。今後はそのような形で進めていただければありがたいなというふうに思っています。

もう時間があと10分ほどになってまいりましたので、この道路問題についての話をしたいと思っております。今、431、イオンの南側のところでオリックスが造成工事を始めております。先ほどの答弁にもありましたが、道路の交差点についての、道路の混雑ぐあいを数値化されたデータを御提示いただきました。確かにこのパーセンテージからいくと、そこには該当していないということの状況でございました。

そこで、本日ちょっとフリップを持ってまいりましたので、見えるか見えないかちょっとわかりませんが、皆様のお手元には道路網図を提示させていただいています。現在、イオンの東館、西館があって、先ほどの交差点はここにあります。それで、私、本日はこの黄色い路線について所見を求めてまいるわけでありまして、実はもう今、混雑してまいりますと、各車にはカーナビがついておりますので、小さい道路とか幹線道路じゃない道路まで通りになられます。どういふときが多いかといいますと、大体、盆、正月並びに5月の連休、国道やそれからインターチェンジがありますので、それらの迂回ルートとショートカットルートです。それで、びっくりするように県外車がこのような狭い道路まで通られたりいたしております。

それで、先ほどの数値化した云々ということではありませんが、今後はこれらの道路について、先般もこの橋通道と、これ34番、宮川北線ですね。この交差点のちょうどここで田んぼの中に車が転落をしておりました。真っすぐ来てそのままでした。なぜかなというふうには思いますが、さまざまな状況があったのではないかなというふうに思っております。それで、ここがふれあい道路なんですけれども、これの東西が、このふれあい道路の先端のところからしばま

っております。それで、広い道路から細い道路にそのまま来られて、片やホレコのほうまで行かれます。片やイオンのほうに向かって行かれます。ということで、道路アクセスが大変不均衡になってるというふうに思うわけでありますので、先ほどの村長の答弁では、これらの道路については改良の計画は持ってないということではありましたけども、将来的には、やはりこれらのことは考えていかないと、私はいけないなというふうに思っております。できれば、今のオリックスの、今後オープンして云々がありますけども、その改良をしないということではなくて、オリックスのあの状況を見ながら、それらを調査して、再度その認識を新たにしていくお考えはないのかなというふうに私は思うんですが、その辺はいかがなものでしょうか。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。議員おっしゃいますように、新たな大型店ができるということで、その交通の状況につきましては、やはりどうなっていくのかという様子は見ていく必要があると思っております。ただ、その実際に調査をするまで、するかどうかというのはあれですけども、様子を見ていきたいと考えています。以上です。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 今定例会では村長にもよいしょをしとかないけんと思いますが、2号線と村道の交差点の、役場線のあその交差点の改良調査に入るということで、これはやはり大きく前進をしていただいたというふうに感謝申し上げます。それらも含めてなんですけども、やはり前々からずっと出てたということで自治会からの要望もあったり、そういうことがようやく実を結んでこういう結果になったと。たまたまと言ったら失礼なんですけども、国庫金からの事業費の半分もあったということも多分あると思います。

それで、もうあと時間がなくなりましたので、この一番最後の点に絞りたいと思います。村内の自治会からの要望で道路整備に関する意見ということで、私も昨年も議会と語ろうで樽屋に来たときでも言われましたけど、草刈りをこの宮川北線でやっておられて、石をはねて、道路尻の、のり尻の田んぼとの間の草刈りをして、ぴんとはねて車に当たったら危ないし、どうするんだということの悩みを言われたり、草刈りをしていたら後ろから車がすごいスピードでやってきたりだとか、さまざまな状況もありました。そういう自治会の要望なり云々は、やはり聞いており、それらの回答をしてるという、それは自治会長会の中かどうか私もわかりませんが、回答をしてるということにとどまらず、それをどのようにしてどうやったらいいかなということは、やはりその部分もそしゃくをした回答を私はしてほしいなというふうに思っております。今のは一例です。

それでもう一つ、これは一例です。431東交差点です。橋通道から北を見た写真であります。わかりますでしょうか。大きなちょっとハンバーガー屋さんあります。これイオンの渡り廊下です。ここに車とまっていますね、これは何かというと、ドライブスルーで、ここを封鎖をしております。こちら南側のほうからこちらに向かってきた車が、たまたま今、停車をしております。こうなりますと、向こうから、海のほうから北のほうから、こちらの南側に橋通道を通って帰るにも帰れません。私どもも固有名詞を出したらいけないかもしれませんが、海川自治会の方は、ちょうどお昼前に農作業が終わって帰るにも帰れない。何度も行政も御存じのはずです。それである方はもうたまりかねて、警察までお電話をされてきたこともあります。これはやはり、もう少し行政も考えていただきたい。それで、今ここ、こちらを工事しております、オリックスが。その結果をきちっと見た中で、そこは善処をしていただきたい。あれを改良して、幅員広まります。広まっても同じようなことでしたら何にもならないということ冒頭に申し上げておきたいと思っておりますので、この開発造成工事が終わってからは、きちっとこの状況を把握していただいて対処していただきたいというふうに思っておりますので、その辺についての、簡単でもいいですので、この施工工事後の対応について所見をいただきたいと思っております。

○議長（井藤 稔君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。今、橋井議員のおっしゃいました交差点の件につきましては、最初ありました自治会の要望からもいただいているところでございます。村としまして、これまでも事業者様のほうに誘導員の設置等々の要望というか、お願いはさせていただいているところではございますけれども、今回のまた道路の拡幅も含めまして、また今後の様子を少し見てみたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（井藤 稔君） 橋井議員。

○議員（3番 橋井 満義君） 申しわけありません、村長、ここに山林を忘れておりましたが、すぐ終わります。山林がありましたので、うなばら荘の北側の山林の部分につきましては、村長も施政方針の中で、森林環境税が一部譲与税になったということを御答弁いただきましたので、この間伐と整備については、また今後、御検討いただきたいということをお願いして終わりたいと思っております。済みませんでした。

○議長（井藤 稔君） 以上で橋井議員の一般質問を終わります。

○議長（井藤 稔君） 以上で本日の議会日程は全て終了いたしました。

本日はこれをもって散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時40分散会
